

秀人のつぶやき ～桜の花見にまつわるお話～

2022年 来ました！気分も高まる春です！

皆様、お元気でしょうか！代表の息子の麻田秀人です！寒い冬が終わり、ようやく来ました、春でございます！待ってました！実際の気温の暖かさだけでなく、蝶やトンボなどの虫なんかを見かけたりし、ああ春になったんだなあ、と実感が増している今日この頃であります！

そんな春を象徴するものと言えば、やはり『桜』ではないでしょうか？

先日、日帰りですが社内旅行的な感じで、花見に行ってきました。実はこの時期になると毎年会社で行っているのです。今年は『日本さくら名所百選』にも選ばれている、埼玉県の長瀨町に。もちろんお酒は飲みませんので、文字通り“花を見る”ことを主として行ってきました。いやあ、本当に綺麗でした！お酒は飲みませんが、せっかくの旅行ですから、もうほんとはバクバクバクバク、いろんなものをたくさん食べました！1日で体重も2.5kgくらい増えていて、夜は気持ち悪過ぎてよく寝れませんでした…。花見って、こんなになるんだなあ、と勉強させられました。良い思い出です！

長瀨駅北通り 満開！



そんな「桜の花見」は、いつから日本の文化になったのでしょうか？

起源は奈良時代

日本で花を觀賞する行事が生まれたのは、実は奈良時代だと言われています。いくつかの説がありますが、中国から日本に伝わったという説が有力です。ただし当時は現代のように桜を見るのではなく、梅を鑑賞するのが主流だったようです。梅は、中国との交易が盛んになる中で日本にやってきたものの1つで、貴族たちの間では庭に梅を植えるのが定番だったと言われています。万葉集にも梅を詠んだ歌が多く残されており、その数は桜を詠んだ歌の倍以上であることから、当時の人気ぶりがうかがえます。その後、日本独自の文化が重要視されるようになり、梅から桜を鑑賞する形に変化していきました。

貴族から武士、そして庶民へ

貴族の行事だったお花見ですが、鎌倉時代になると武士にも広まっています。中でも歴史に残る盛大なお花見が、豊臣秀吉により行われたもの。徳川家康などの有名な武将を総勢5000人招いた「吉野の花見」と、醍醐（だいてい）寺に700本もの桜を植えて行われた「醍醐の花見」です。



吉野の花見

庶民もお花見を楽しむようになったのは江戸時代になります。その立役者とされるのが徳川家光と吉宗で、家光は上野に、吉宗は隅田河畔や飛鳥山に多くの桜を植えて名所にし、にぎやかな宴会型のお花見を奨励しました。こうして身近な場所で気軽にお花見ができるようになり、春の娯楽として広がっていきました。

お花見で豊作祈願

お花見には、風流なお花見とは異なるルーツもあります。それは、農民の間で行われていた「豊作祈願」のお花見で、春になると山から里へおとってくる田の神様をお迎えするという行事です。

昔から、田の神様は桜の木に宿ると考えられていました。桜の開花は田の神様がやってきたしるしとなるため、桜の下で田の神様の到来を祝ってなしました。桜の開花具合でその年の収穫を占ったり、農作業の準備を進めたりもしていたそうです。

桜、そしてそのお花見は、長く日本の歴史に根付いているんですね。ちょっとした花見のルーツのお話でした！食べ過ぎには注意して来年も楽しみたいと思います！



醍醐の花見

ASADA 通信

Vol. 95

2022年4月

今月のテーマ

- I ロシアはなぜウクライナに侵攻したのか？
ウクライナ危機の背景
- II 秀人のつぶやき
～桜の花見にまつわるお話～

想いをのせて 感謝 ありがとう

遠い昔から私たちを魅了してきた桜。時代は巡り、生活は変わっても、桜の季節になると何故か心が騒ぎます。今年も日本各地で、美しい満開の桜の花が、私たちの心を癒してくれました。

皆さんはニューヨークにも桜の木があることはご存知でしたか？あの有名なセントラルパークはもちろんのこと、マンハッタン(世界の金融の中心地でありメットライフ生命の本社があります)内外に数か所桜の木が植わった公園があり、



桜のシーズンには当地在住の日本人だけではなく、ニューヨーク人も桜を愛で楽しんでいます。

桜といえば国花と呼んでもよい日本では国民的に親しまれている花というのは世界でも知られているのです。ニューヨークの桜には100年も前に日本から贈られた桜「ソメイヨシノ」がたくさんあります。今年も満開に咲きました。又、このセントラルパークには、ジョン・レノンさんに捧げるために設けられた「ストロベリーフィールズ」には「イマジジ」の歌詞が刻まれた円形の記念碑があります。



さて、日本ではコロナ禍もまだまだ収束には遠い今。頻りに起きる地震。毎日報道されるウクライナを攻撃するロシアの情勢と映像に心が痛みます。人命など考えない、人の生きる権利も奪い、子どもや女性にも言葉で表せない程の暴力を振るっているロシア軍。



ロシアは私たちの住む日本の北方領土の国後島、択捉島の演習場などで軍事演習を2度実施し、さらに日本海では14日、ミサイル「カリブル」を潜水艦から発射し、日本に対するけん制の度合を強めている。

揺れ動く世界情勢、日本に求められている姿勢とは何か。

日米両国を取り巻く安全保障環境は脅威が増大しています。それも長期にわたって続くのではと考えられます。日米同盟アジア太平洋での平和と安全を確保するうえで、米の真価が問われる時代になりました。自由と民主主義、法の支配に基づく国際秩序。今、まさに揺らいでいることを目指す時代になったのかと思います。さらに、互いの内政上の困難な事情を理解したうえで、克服していく自助努力が求められるのだと思います。



ウイルスも 上司の指示も 変異する

信頼と実績で皆様にご愛されて35年！

生命保険・不動産の売却・買い取り すべてお任せください！



株式会社 オフィス ASADA

代表取締役 麻田 春江

住所：〒302-0015 茨城県取手市井野台1-7-28
TEL：0297-72-2401 FAX：0297-72-6217

E-mail：info@officeasada.com
URL：https://officeasada.com



1 ロシアはなぜウクライナに侵攻したのか？ ウクライナ危機の背景

2022年2月24日、突然ロシアがウクライナに軍事侵攻を始めた!!このニュースに誰もが驚いたと思います。今、現実起きています。戦争が始まって2ヶ月になります。湾岸戦争は3ヶ月で終結しましたが、この戦争はこの先どうなるのか全く不透明です。今回は歴史に残るであろう悲惨な大惨事が起きている事実を記事にすることに心が痛みますがこの戦争はロシアとウクライナだけの問題ではない。過去の歴史から様々な問題を含めている事は事実である。このことで世の中が大きく変化する転換点になるのではと思えるからです。

ロシア人はなぜウクライナに侵攻したのか？

多くの人の命が奪われ、多くの建物が破壊され、それまでプーチン大統領は自分の欲望を果たそうとしているのか？外交・安全保障の専門家、日経新聞などの記事から「何故!!どうして!？」を紐ときます

「同じルーツを持つ国」 同じルーツを持つ国とはどういうこと？

それを知るカギは、30年前のソビエト崩壊という歴史的な出来事を知る必要がある。30年前までロシアもウクライナもソビエトという国を構成する15の共和国の1つだった。ロシアの外交・安全保障政策に詳しい笹川平和財団の畔蒜泰助(あびるたいすけ)主任研究員はロシアとウクライナの関係は、さらに歴史をさかのぼる必要があると指摘している。

8世紀末から13世紀にかけて、今のウクライナやロシアなどにまたがる地域に「キエフ公国=キエフ・ルーシ」と呼ばれる国家があった。その中心の都市だったのが、今のウクライナの首都キエフだった。「キエフ公国」が10~12世紀に欧州の大国となり、同じ東スラブ民族からなるロシア、ウクライナ、ベラルーシの源流になった。(ルーシとはロシアの古い呼び方)ウクライナは東スラブの本家筋、分家筋のモスクワが台頭して大きくなった。



ウクライナの一角は、その後さまざまな大国に支配され1922年にソビエト社会主義共和国連邦(ソ連)ができるまでソ連を構成する共和国の一つとなった。

30年代にはソ連の压制下で大飢饉(きまん)が起き、数百万人が亡くなったと言われている。

86年にキエフの北約110キロにあるチェルノブイリ原発で大きな爆発事故が起き、放射性物質が放出され多くの人たちに深刻な健康被害が出た。

プーチン大統領と民主主義

旧ソビエト時代から長年にわたってロシア取材してきたNHKの石川一洋解説委員は、プーチン大統領はウクライナを「兄弟国家」と呼び、「強い執着」があると見ている。

実際、プーチン大統領は去年7月に発表した論文の中でロシアとウクライナ人は同じ民族ということ述べていて、こうした歴史から、同じソビエトを構成した国のなかでも、ロシアはウクライナに対して特に「同じルーツを持つ国」という意識を強く持っていると言及している。プーチン大統領はなぜ「兄弟国家」と呼んでいたウクライナへの軍事侵攻に踏み切ったのか。その心理を読み解く鍵となるのが、プーチン氏と民主主義との関係だ。

プーチン氏が強い恐怖を感じたのは、11~12年のプーチン体制の長期化に反発する市民による「反プーチン運動」が拡大したこと。政権による毒殺未遂疑惑がある反対派指導者アレクセイ・ナワリヌイ氏が21年1月に逮捕されると再び大規模な反政権デモが展開された。

まさに足元のロシアで自身が率いる政権に対する大規模なデモが起きたことだ。

そして、民主主義やその支持者に対し、病的なほどに疑い深くなった。

とどめの一撃が2014年、ウクライナで大規模な市民の抗議活動があり、ロシア寄りの政権が崩壊した。

それが「マイダン革命」である。

ウクライナが民主主義で、ロシアが独裁体制である限り、民主主義は直接的な脅威になるからだ。

ウクライナはロシアをどうみているのか？

一方、ウクライナはそうした「兄弟意識」はなくなった、と指摘している。ソビエト崩壊後の30年間で、ウクライナは独立国家になったとの意識が高い。

しかし、ウクライナは複雑な事情を抱えている。ウクライナ東部はロシア語を話す住民が多くロシアとは歴史的な繋がりが深い。一方、ウクライナ西部はかつてオーストリア・ハンガリー帝国に帰属し宗教もカトリックの影響が残っていて、ロシアからの独立志向が強い地域。

2014年にロシアの力によるクリミア半島を併合した、ウクライナの東部である。(国際社会は併合を認めていない)



ソ連崩壊後30年 大国ロシア復活の野望と摩擦

1991年12月、米国と並ぶ超大国として世界の覇権を争ったソビエト連邦が崩壊した。それとともに東側のワジャワ条約機構は解体された。

自由主義の理想を掲げたソ連は、自由と人権を抑圧する全体主義国家だった。

ソ連崩壊から30年、継承国ロシアは「大国の復活」の野望を抱くプーチン大統領の下で再び強権体制へと傾いた。中国などと連携して米欧主導の世界秩序に挑戦する。

民主主義陣営は一時東西冷戦の勝利に沸いたが再び試練に直面している。

「皇帝」プーチンの誕生

「わがロシアは繁栄し豊かで強く文明化された国になる」2000年5月7日モスクワのクレムリン大宮殿で、47歳の若きプーチン氏はこう表明し、第2代ロシア大統領に就任した。

掲げたのは「強いロシア」の再建。だが、米欧では旧ソ連国家保安委員会(KGB)出身者がエリツィン氏の後継指名を受けたことに戸惑いが広がった。その不安は21世紀が進むにつれ、ロシアと米欧の激しい対立として現実のものになってきた。



プーチン大統領

もう一つのカギは「NATO」=北大西洋条約機構の“東方拡大”

「NATO」は、もともと東西冷戦時代にソビエトに対抗する為に、1949年にアメリカなどがつくった軍事同盟である。ソビエトが崩壊すると、NATOはもともと共産主義圏だった国々に民主主義を拡大する、いわば政治的な役割も担うようになった。

当時、東欧諸国などの多くが、経済的に豊かだった民主主義陣営に入ることを望んでいたため、NATOへの加盟を望む国が相次いだ。

1999年にポーランドやチェコ、それにハンガリーが正式に加盟。2004年にバルト3国などが加盟した。こうした動きを「東方拡大」と呼ぶ。

ロシアはかつてナチス・ドイツなど西側から陸上を通過して攻め込まれた歴史があるため「東方拡大」に強い抵抗感がある。

ウクライナはNATOへの加盟を求める動きがあった。ロシアから見ると対抗勢力のNATOに近寄ってほしくない強い嫌悪感があり、それが現在のロシア/ウクライナ情勢の問題につながっている。

なぜウクライナはNATOに加盟できない？

冷戦後のNATOは単なる軍事同盟ではなく、政治的な実態、資本主義的な自由度汚職の問題、このような西側のスタンダードに近づいた政治制度や経済の仕組みなどを共有できないと加盟できないというのが大原則なのだ。

ウクライナは財閥と政治家の癒着がはびこり、根深い汚職体質を脱却できていないと長年指摘されてきた。より重要なのはロシアを刺激したくないという加盟国の思惑がある。フランスやドイツなどは、ウクライナが加盟すればロシアがヨーロッパ全体の安全保障を脅かす軍事行動に出る恐れがあるとして、これまで一貫して否定的な姿勢を見せている。



ゼレンスキー大統領